

重要文化財函館ハリストス正教会復活聖堂

函館ハリストス正教会は1860年、ロシア領事館の付属聖堂として建立されたのが始まりです。1861年に聖ニコライ(1836-1912)がロシアから付属聖堂付司祭として函館に派遣され、1872年に東京に移って日本全国で正教会の伝道を始めました。

木造であった初代聖堂は1907年に大火で焼失しましたが、1916年に二代目となる現聖堂(主の復活聖堂)がレンガ造で再建されました。真白な漆喰壁や緑青がふいた屋根などが特徴で、聖堂内には当時ロシアからもたらされたイコン(聖像)やイコノスタス(聖障)が納められています。

イコノスタスと聖堂は1983年、国の重要文化財に指定されました。また鐘楼の鐘がリズムと共にメロディを奏でることから「ガンガン寺」として市民に親しまれ、鐘の音は「日本の音百選」にも選ばれています。